

2026年丙午、事始め

新年のスタートを皆さんはどうのように過ごしましたか。ここに私の生活の一部を紹介しておきます。

■ 12月31日(水) 横浜線→小田急江ノ島線→江島電鉄にて腰越にある HOTEL AO Kamakura まで移動。3家族9人で宿泊、賑やかに年越し。もは蕎麦屋だったという HOTEL で、しかも江ノ島海岸沿い。夕方には海岸に出て、夕陽を眺める。1階の喫茶兼用のレストランでは夜 10:30 からは「年越し蕎麦」も供された。



HOTEL AO Kamakuraの概観 HPより



2025年12月31日の夕日



2026年元旦(江ノ島東浜)



小動(こゆるぎ)神社



JR品川駅改札に掲げられた箱根駅伝たすき型装飾



10区を走る吉中選手 海峡をのぞむ山口県立豊浦高校HPより



薬師如來の12の守護神のうちの1体(午神像)



HPより

■ 1月1日(木) 江ノ島海岸東浜に出て、初日の出を遙拝。今年度の『さらなる飛躍』を願うが、余りの人の多さに圧倒される。HOTEL に戻って屋上テラスに行き、温かい「出汁」スープをいただく。その後、腰越漁港の脇にある小動神社にて初詣。皆さんの健勝とさらなる発展を祈願。午後には皆は車、私は片瀬江ノ島より小田急江ノ島線を利用して帰宅。再度、我が家で長男一家4人を出迎え、そのまま宿泊。祝膳は高島屋から御取り寄せ。長女の家族3人は婿の実家のある戸塚へ。

■ 1月2日(金) 昼過ぎに長男一家は帰宅の途へ。夜は自宅にて学校の昇降口に飾る「馬の点描画」を綿棒を使って制作。

■ 1月3日(土) 中央大学10区(23.0km)最終ランナーに昨年7区を走った吉中 祐太選手が出場変更になったことを知る。彼は、我が母校(山口県立豊浦高校)陸上競技部の後輩で応援に品川まで出かけた。しかし、結果は1時間10分33秒(区間15位)と振るわず、中大は國學院大学、順天堂大学、早稲田大学に抜かれて総合第5位に沈む。

■ 1月4日(日) 午前中より丸の内の旧明治生命館(重要文化財)、曜变天目茶碗で有名な静嘉堂文庫美術館にて『たたかう仏像』展に出かける。重要文化財《十二神将立像》(淨瑠璃寺旧蔵)をほかの作品群を観賞。12という数字に絡め干支に因んで、外敵や災厄から人々を守る守護的役割が期待され、衆生の救済、個人の内面の「煩悩」とたたかう存在として信仰されたという。

■ 1月4日の午後は、12月初旬に出かけたエジプト旅行の思い出を胸に、築63年になる上野の東京文化会館にて16:00より3時間半に及ぶウクライナ国立歌劇団『アイーダ』を観賞。バックステージツアーにも参加(私学共済のイベント抽選に当選したお陰)。

夜は浅草に移動し、雷門通りに面した The GATE HOTEL 雷門に宿泊。ロビー、館内の家具や照明デザインは内田 繁の作品。また、ホテル屋上階には宿泊客専用のバーとオーブンテラスがあり、夜景やスカイツリーを臨める。ここで一杯を傾けて楽しんだ。13 階のレストランにはダンボールアートで著名な日比野 克彦(東京藝術大学学長)の作品が飾られている(note 1)。

■ 1月5日(月) 早朝 6:30 雷門より仲見世通りを抜けて浅草寺に参拝。36期受験生の合格を祈願。「おみくじ」を拝受。朝は外国人観光客と商店の開店準備を急ぐ人々や寺社清掃する人などしか見かけることなく、「こんなに静か！」なのかと驚く。ダイヤモンド会員の優遇チケットで昼までのんびりと部屋やテラスで過ごす。

■ 1月5日(火)午後は、都営線一東武押上線の直通電車で葛飾区青砥駅へ。午年の今年、午(馬)に纏わる神社としてテレビでも紹介されていた五方山熊野神社へ詣でることに(note2)。ここは陰陽師:安倍 晴明ゆかりの神社としても知られ、寺の敷地は五角形からなり、祖父ー父ー本人とも競馬関係者という宮司が務める。本殿入り口には「茅の輪くぐり(輪くぐり)」があり、作法に従って罪祓いを行った(note3)。境内には三頭のポニーが飼われており、参詣者を喜ばせていた。帰りは都営新宿線を利用して新宿伊勢丹に立ち寄り、京都市上七軒に店舗を持つ有職菓子御調進所:老松の「花びら餅」ほかを買い求めて帰宅。

■ 1月 7日(水)今日は3学期に向けての教職員打合せ。専任・非常勤の教職員70余名がそろって、3学期について学校行事や授業を中心に、各分掌や係から連絡と報告を受け、情報を共有した。私からは、新しい年の始まりと年度の総括へ向け、「魅力ある授業づくり」のためのさらなる工夫と努力を先生方にお願いした。特に、SNSやAIの発達した現在社会において、大切なことは「言語力」だという話をした。

さて、朝は前日にスーパーで買い求めた「七草」をもとに粥にして食した。1月7日は、年に5回ある「五節句」のうちで最初の節句。「人日の節句」とされる(note4)。唐ではこの日を「七種菜羹」と呼ばれ、七種類の野菜が入った汁を食べて無病息災を願ったとされる。江戸時代には「春の七草」として庶民にも広まり、無病息災、長寿健康を願うようになったという。



The GATE Hotel 雷門 HPより
上左：レストランからの夜景
上右：屋上オーブンテラス
左：内田 繁デザインのロビー



ほとんど人のない朝の雷門通りと仲見世通り

吉	十	二	第
更	言	家	月
變	財	財	出
立	先	每	漸
功	有	々	分
名	利	興	明

浅草寺観音鑑 第二十吉 月出湯分明 朝御：叶えられらるでしょう。
月もてで、だんまりくなるよう、よう
く希麻もむかへて来ましよう。
良財富貴 朝御：治るでしょう。
家財の財産も次第に出て、家業も終盛して來
るでしょう。

何吉牛星 朝御：出来来るでしょう。
今まですっかり事運通ばなかつたことと、
最後は良い方と進んでいくこととし
まう。

更裏立文 朝御：人来いでしょう。
さらには、世間・評判よく、利益を得られるよ
うな立ち文である。

金運：出で来いでしょう。

金運：引揚：良いでしょう。
結果：付き合：全て良い組
金運：出で来いでしょう。

旅行：良いでしょう。

No.20 GOLD FORTUNE

The moon rises in the sky and gradually getting bright. You will get household goods and your life will be prosperous. Something you've left behind will be completed in the end. Then you will be able to be successful.

*Your wishes will be realized. "A sick person will recover." The last article will be found. "The person you are visiting for welfare can die." Building a new house and removal are good. "Marriage and employment are all good." Making a tip good.

「浅草寺観音鑑」の心と命

御鑑は年次改訂の書で、中古より100年、近頃は同じく「日本時代の風俗をも
つた貴重な叢書」と評され、現在では「日本の歴史書庫」ともいわれて
いますが、併せて今改めて改めて「日本の歴史書庫」といえます。平安・室町・小山・高
麗・大河の四大著者があるのです。この中、大河内氏がからかって書いていたり、「小山・高麗
風俗」などは、因縁がある人も多いかも。読むと、読むとその気分を人に伝わる彼らの
言葉が、胸に沁みこむ。この本は、必ずお読みになってください。必ず、お読みにな
ることで、必ず吉になります。吉は人生が幸せの二面を願いて、吉の指の指定場所にこの
御鑑を置くことで、これまでさざなひでござります。

あくまでも幸運の
漫草寺

浅草寺でのおみくじは「吉」だった



五方山熊野神社とボニー

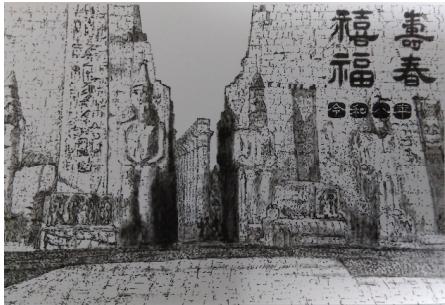
「茅の輪くぐり」の作法

朝食後には、抹茶と共に縁起を担いで「花びら餅」をいただく。元来、“お正月”はお盆と同じく先祖の靈や祖先神を迎える神事でもあり、その年の福徳を司る穀物の歳神(歳徳神)を迎える儀礼が行われる。それに合わせて菓子が作られるが、その代表的な菓子が「花びら餅」である。丸くした餅に小豆の渋で赤に染めた菱餅を置き、白味噌とゴボウの甘煮をのせて半円状に折り畳んだもので、「菱 茶」^{はなびら}という宮中の正月食に由来するという。中に挟むゴボウは「押鮎」^{おしあゆ}の見立てとされる(note5)。

今年も楽しくも忙しい年が始まる。

【追記】

今年も忙しい年明けとなった。部屋の片付けは相変わらず経過中。12月初旬に休みをいただきて50年ぶりに出かけたエジプト旅行については、別途報告予定である。



12月
ルクソールにて

note

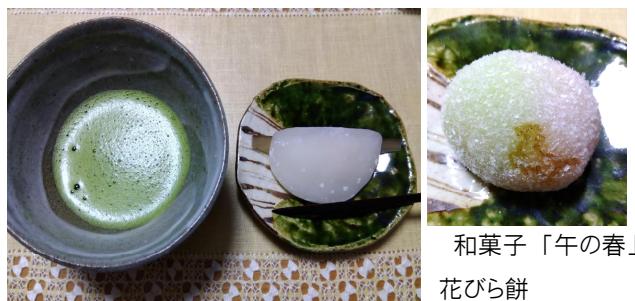
1. 「商品建築」2013年8月号, Vol.58-8. pp.63-71.
2. 他にも馬にまつわる寺社としては台東区稻荷町にある矢先稻荷神社も有名。本堂天井に飾られた100枚の絵が知られる。
3. 「茅の輪くぐり」は、本来6月30日と12月31日に行うもので、前半の罪や穢れ祓いを、また後半の無病息災を願うもの。
4. 「五節句」とは、次の5つをいう。
 - ◆1月7日（人日） ◆3月3日（上巳）
 - ◆5月5日（端午） ◆7月7日（七夕）
 - ◆9月9日（重陽）
5. 「押鮎」とは、鮎を塩漬けにして重石で保存したもの。平安時代に新年の「歯固めの儀式」で使われた縁起物。

ref. この年末年始に読んだ本

- 1) 酒井 信 (2025) 『松本清張の昭和』講談社現代新書, 262 ページ.
- 2) 内田 洋子 (2021) 『モンテレッジオ 小さな村の旅する本屋の物語』文春文庫, 302 ページ.
- 3) 馬場 匡浩 (2021) 『ファラオ 古代エジプト王権の形成』ちくま新書, 304 ページ.
- 4) 白川 尚史 (2025) 『ファラオの密室』宝島社文庫, 352 ページ.
- 5) 犬童 千絵 (2015) 『青いファラオの瞳 男装の女王の物語』1巻 KADOKAWA, 200 ページ (漫画).



七草粥



和菓子「午の春」
花びら餅



京都の老松(本店)HPより



北斎風に描いた水墨画擬き 我家の正月用飾り

